

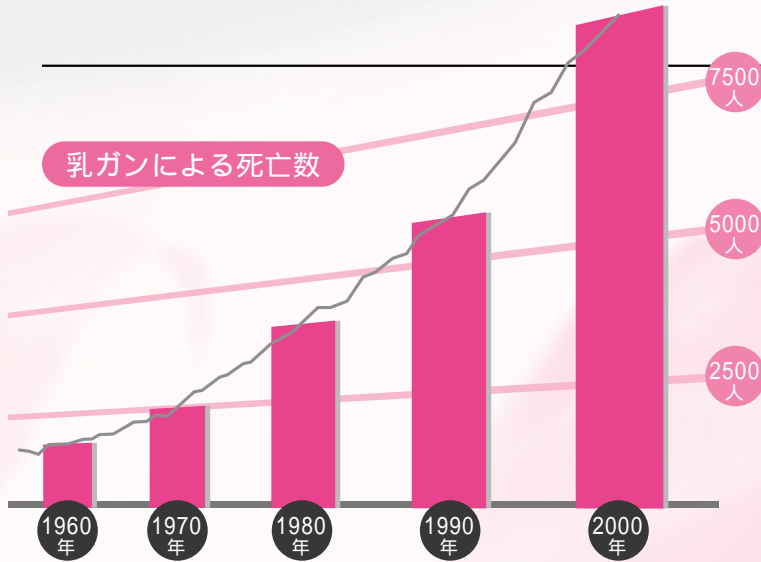
乳がんのお話

掛川市の乳がん検診が変わりました。従来の視触診のみの検診ではなくなりました。今回は、外科の羽藤先生にお話を伺いました。



乳がんは増えている

日本における乳がんの発生は近年増加し、それに加え乳がんで死亡す



がんによる死亡率の順位

- 1位 胃がん
- 2位 大腸がん
- 3位 肺がん
- 4位 肝臓がん
- 5位 乳がん

乳がんによる死亡のピークは40~50歳



る人も増加しています。およそ1年間に3万5千人の人が乳がんに罹り、1万人が乳がんで亡くなっています。日本女性も欧米と同様に女性がかかる癌のトップになっています。女性で癌で亡くなるひとを部位別に見ると①胃がん、②大腸がん、③肺がん、④肝臓がん、⑤乳がんの順です。日本では乳がんに罹る年齢のピークは45歳~50歳、死亡率のピークは55歳といわれています。

欧米

の乳がん事情

一方欧米でも乳がんの発生は増加していますが、死亡率は減少傾向にあります。死亡率が下がってきている理由は欧米ではおよそ1980年頃からマンモグラフィ検診が導入されていたからと分析されています。マンモグラフィというのは乳房レントゲン撮影のことで、マンモグラフィ検診でごく小さな乳がん、あるいは乳管内乳がんといつて触診では分かりにくいタイプの癌を発見できるためと考えられています。死亡率を下げる第1の方法は早期発見、早期治療であることはどんな病気でも同じことです。

また乳がんというとかつての、乳がんの手術は乳房切除という先入観にとらわれがちですが、早期発見すれば乳房温存手術の割合も多くなりますし、温存する事で生活の質の向上も得られます。

日本

の乳がん事情

日本でもずいぶん前から30歳以上の女性を対象とした視触診での乳癌検診が始まりました。しかし乳がんの患者さんは増加する一方で乳がん死亡率は低下しませんでした。

こんな状況の中で、わが国でもマンモグラフィ検診の導入が検討され、2000年からは50歳以上を対象にマンモグラフィ検診が広がり、さらに昨年話題となった朝日新聞のマンモグラフィ検診のキャンペーンも追い風となって、全国的に2004年4月から40歳以上の女性を対象としたマンモグラフィと視触診併用での検診が始まりました。

